



変死

100 の真実の物語

Studio Minuit presents:

実録・怪死100話

ストローに突き刺されて死ぬか、ナメクジに殺されるか、空から降ってきた牛に潰されるか、ニンジンに毒を盛られるか、笑いをこらえて死ぬか？NO？そうですね... 可能性はありますね。残念ながら。あなたは、最も不条理で悲劇的な、時には笑える100の死に方を発見し、寒さを感じると同時に微笑ましく思うことでしょうか。その一つひとつが、存在の耐え難いもろさや、危険な行動を避けることの必要性を思い起こさせるのです。

"非日常的な死 - 実話" はStudio Minuitのポッドキャストでもあります。

他の作品を見る:

犯罪 - 実話

スパイ - 実話

シャーロック・ホームズ - 探偵物語

フランスで起きた殺人事件-実話

www.studiominuit.com / contact@studiominuit.com

自家製スムージー

工レナ・ストラザーズ＝ガードナーは、イギリスのブロードストーンに住む60歳の定年退職した女性。彼女は、女性としては珍しく、騎手という仕事に就いている。時速55キロ以上で疾走するサラブレッドに、エレナは何年も命をかけて乗ってきた。ハイリスクな仕事です。騎手の中には、調教中やレース中に落馬やジャンプの犠牲となったり、不意に相手の馬に踏みつけられたりして死亡する者もいる。

工レナ・ストラザーズ・ガードナー、通称レナは、数十年にわたる危険を乗り越え、今は当然のように引退生活を楽しんでいる。今、彼女は家で静かに座って、冷たい飲み物を作っているところです。環境に配慮し、使い捨てのプラスチック製ストローではなく、再利用可能な金属製のストローを選んでいきます。しかし、飲み物を手にしたとたん、レナは足を滑らせ、バランスを崩して床に顔から落ち、ストローが目刺さった。ストローは彼女の左眼窩を貫通し、脳を貫通する。

4年連れ添った妻のマンディさんは、倒れる音は聞こえなかったという。彼女はレナが腹ばいになり、「異常なゴボゴボ音」を立てているのを発見した。

彼の死によって、検視官は金属製のストローを固定する蓋のついたストローの使用を控えるよう警告を発した。

本日の一品

死後20分以上経過した動物に殺されることはあるのでしょうか？
理屈では、いや、そんなことはありえない。首を切られてから20分は経過している蛇は、理論的にはもう害を及ぼさない。ところが、小さな有名なアジア料理店のシェフ、彭芳（ポンファン）の身に起こったことである。

Peng Fanは、アジアで人気の高いインドシナ産のコブラをモチーフにした本日の料理を用意しています。カンボジア、ラオス、ビルマ、タイ、ベトナムなど東南アジアの国々に生息する蛇です。成虫は最大1.6mになる。平野部、丘陵部、森林、ジャングルなどに生息している。主にネズミやヒキガエル、他のヘビなどを捕食する。主に夜行性で、日中に邪魔をされると逃げ出すことが多い。

なぜ、スピッツコブラと呼ばれるのか？毒を被害者の目に吐き出すという不快な習性を持つ。被害者は一時的または永久的に失明する可能性があります。咬まれると致命的で、呼吸器系の筋肉が麻痺し、窒息死する。

料理人の彭芳は、蛇の頭を切り落とし、調理台の上に置いておいた。20分ほどかけてスープを作り、蛇の胴体を切り分けた。ハーブや小野菜を入れた大きな鍋でヘビを煮込んでいるところです。美味しいスープです。

作業台の上にあったコブラの頭を捨てようとした彭は、切断された頭から即効性のある毒を注射され、噛まれてしまう。レストランの客は厨房から悲鳴を聞いたが、残念ながら救助が間に合わず、料理人は助からなかった。

爬虫類は、首を切られても1時間程度は反射機能を保つことができます。念のため、知っておいて損はないですよ

危険なレシピ

レベッカ・バーガーは33歳のフランス人モデルで、自身のInstagramアカウントに20万人近いフォロワーを持つフィットネスファンです。それはとても不条理で、オフビートな響きです。ホイップクリームは乱用しなければ、かなり一般的で無害なデザートです。それがレベッカ・バーガーを殺したんだ！

2017年6月18日（土）、レベッカは自分で生クリームのデザートを作ることにしました。しかし、生クリームを入れるサイフォンのガスカプセルが爆発し、彼女の胸に命中してしまう。不慮の事故とその傷害により、彼女は心停止に陥る。現場に到着した消防隊は、心臓マッサージを試み、蘇生に成功した。病院に運ばれたが、意識不明のまま翌日死亡した。この悲惨な事件のニュースは、モデルの家族がInstagramアカウントにホイップクリーム缶の画像を投稿し、"これがレベッカの死の原因となったホイップクリームのサイフォンです" というキャプションを添えたことで広まりました。

これらの事故は、容器が加圧されているために起こるものです。このタイプのホイップクリームディスペンサーは、亜酸化窒素の充電器を使って容器を加圧し、ホイップクリームを噴射させるものです。圧力がかかるとガスは爆発し、歯の折れ、目の欠損、昏睡、顔や胸の骨折などの重傷を負うことがあります。"心臓発作"は、血液が滞って心臓に流れなくなることで起こります。心臓の筋肉組織は血液の供給不足で死んでしまう。一方、心停止は、心臓が突然動かなくなることです。これは、胸を強く打った結果として起こることがあります。"心臓の電気周期の特定の部分にたまたま重なる胸壁への突然の物体の衝撃に関連し、心臓の不整脈を生じるのが普通である。そうすると、心臓は血液を送り出すのをやめ、やがて電氣的な

活動も停止してしまいます。"

一言アドバイス：台所によくあるものは危険なので注意しましょう。そして、フランスでは毎年、家庭内の事故が約2万人の死因になっていることを決して忘れてはなりません。

空から降ってきた牛

ある男が夜、妻の隣で眠りにつく。牛が落ちてきたから、彼は決して目を覚まさない！

牛1頭の重さ：約1,500キロ。落下速度に掛ける。デッドリー

45歳のジョアン・マリア・デ・ソウザに起きたことだ。ブラジル南東部のカラティンガにある自宅の天井から動物が落ちてきたとき、彼は妻のレニとベッドに入っていた。この牛は、夜中に近くの牧場から逃げ出し、小高い丘に建つこの家の屋根に登ってきたのだ。波板の屋根はすぐにたわみ、1.5トンの牛はデ・スーザ氏が寝ていたベッドの横に2.3メートルも落下し、彼に隙を与えなかった。内出血で死亡した。

最新の情報では、奥さんも牛も無傷で済んだそうです。デ・スーザ氏の義理の兄であるカルロス・コレア氏は、ブラジルの新聞に「牛にベッドで潰されるなんて、この世を去る最後の手段だ」と語っている。でも、もし神の御心ならば……うちのジョオを殺したのは牛じゃなくて、救急病院で診察を待つ時間が許容できないほど長かったことだと思うんです。"母親のマリア・デ・ソウザさんは、ブラジルのテレビ局SuperCanalに、"私は空から落ちてくる牛に殺されるために息子を育てたのではありません！"と語った。

ミナス・ジェライス州カラティンガの警察は、この変死事件の捜査に着手した。検察は、牛の飼い主が牛の監督を怠ったとして有罪になった場合、過失致死罪で起訴するかどうかを検討している。

― 見、無害に見える動物でも、意外と危険な場合があるので注意が必要です。そして、ときどき空を眺めることもお忘れなく。

誕生日、ビーチ、フライングパラソル

大西洋に面した広い平和なビーチの砂の上に静かに座っている女性が危険なのか？理論的には、何も不都合なことは起こりません。

6月にほぼ無人のビーチで、親友に囲まれて過ごすことのリスクは何だろうか？さて、55歳のロッティ・ミッシェル・ベルクに大変なことが起こった。ロッティは、6月の静かな土曜日に、少人数の友人たちとビーチで誕生日を祝うことにしていた。しかし、運の悪いことに、この日は時速30km程度のかかなり強い風が吹いていた。風が傘を持ち上げてロッティの上に吹き、彼女の心臓を突き刺したのだ。

米国バージニア州バージニアビーチの警察は、心停止の女性がいるとの通報を受け、午後5時過ぎに33番街ビーチに駆けつけました。ロッティだった。救急隊員が到着し、地元の病院に搬送されましたが、負傷がもとで亡くなりました。調査の結果、海岸の砂に刺さっていたパラソルが強い突風で持ち上げられ、砂の上を滑るように移動したことが判明した。警察によると、傘はベルクさんの胸を刺したという。ドナ・プライス主任検視官は、ベルクの死因は胸部への鈍器による外傷であると発表した。また、死亡は事故であるとした。バージニアビーチ警察の殺人課は、それにもかかわらず、この事件の定期的な捜査に着手した。バージニアビーチのレスキュー隊長であるトム・ギル氏によると、ビーチタウンでビーチパラソルによって人が殺されたという話は初めてだそうだ。ギル氏は、切り離された傘で怪我をした人の話を聞いたことがあるが、ベルクスの死は異常な事故だと考えているという。強い突風が吹いたら、パラ

ソルのアンカーを再調整して確認することが大切だとギルは言います。風が強すぎるようなら、パラソルを下ろせばいいというのがギルの提案。ビーチウェアショップのオーナー、ロブ・リンダール氏によると、パラソルは常に風に向かって置くのが良いそうです。水辺の散歩でも、ビーチでも、パラソルから目を離さないようにとリンダールさんはアドバイスします。

ビーチで泳ぐときは、泳いでいるときに足を食いちぎられるかもしれないサメのことばかり考えないでください。周囲を見渡すことを忘れないでください。

才色兼備の作家と小さなコワモテ

寝る前に殺菌効果のある美容液を2滴目に入れて何が悪い？マンハッタンの大手ホテルの高級スイートルームに目立たないように設置。理論的には、すべてがうまくいくはずですが。しかし、ご存知のように、物事は計画通りにはいかないものです。時には、とても不条理で場違いなものにも見えることもあります。忘れてはならないのは、この人が「熱いトタン屋根の猫」の作者であり、「欲望という名の電車」でピューリッツァー賞を受賞した劇作家、テネシー・ウィリアムズという成功者であることだ。さて、71歳のテネシー・ウィリアムズに最悪の事態が起こったのは、1983年2月22日の夜、ニューヨークの中心地、マンハッタンの54丁目にあるエリシウム・ホテルの美しいスイートルームでのことであった。

目薬のキャップをどこに置けばいいのかわからず、歯と歯の間に挟んで目薬をさした。彼は頭をもたげ、口を開け、キャップを歯で挟み、両手でスポイトを操作していた。誤動作？しゃっくり？くしゃみ？テネシー・ウィリアムズはボトルのキャップを飲み込み、窒息死してしまった。彼の死体は翌朝、秘書のジョン・ユッカーによって発見された。ユッカーは、この劇作家の2つの劇場のスイートルームを共有していたのだ。Uecker氏は、木曜日の夜11時頃、Williams氏の部屋で物音を聞いたが、調査しなかったという。翌朝10時45分頃、ウエッカーさんが部屋に入ると、ベッドの横でウィリアムズさんが死んでいるのを発見しました。検死を行ったニューヨーク市の主任検死官グロス医師は、ウィリアムズ氏が木曜日の夜遅くに、鼻腔スプレーや目薬の瓶に使われるタイプのプラスチックのキャップで窒息死したことを確認した。医師は、喉の奥にある正常な神経反射は、通常、喉頭蓋と呼ばれる喉の開口部に引っかかった物体を排出させるものである、と言った。グロス博士

によると、アルコールや薬物の影響下にある場合など、さまざまな理由で排出反応が弱くなっている可能性があるという。グロス博士によると、不正行為の疑いはなく、この種の死は通常、事故死に分類されるとのことだ。ウィリアムズはドラマチックな瞬間を演出する名手であり、迷いや苦しみを抱えた登場人物を創り出し、尊厳と希望の両方を否定されがちな世界で苦闘する。病気や故障、死に取り憑かれ、常に自分の心臓が止まるのではないかと思っていた。白内障、関節炎、心臓病など、多くの病気を患っていた。「私はあらゆる病気にかかったことがある」と言ったことがある。

一言アドバイス：日常生活でどちらかというとなりげなく無害なことをしているときは注意が必要です。例えば、ペンのキャップやビール瓶の蓋を忘れずに横に置いておくと、何が起こるかわからない。

ギャザラーと森とニシキヘビ

25歳のインドネシア人男性、アクバルは、ナタとバスケットを持って森に入り、アブラヤシの実を収穫している。緑の森、静かで地平線にはほとんど誰もいない。理論上、何もない。しかし、ご存知のように、何事も計画通りにはいかないものです。

翌日、スラウェシ島の叔父が訪ねてくると、家には誰もおらず、鍵がかかっていた。妻は他県の実家に帰り、友人や隣人も前日から誰もアクバルを見ていない。アクバーの叔父は、村人たちを集めてアクバーを捜しに行く。

数時間後、捜索隊は散乱したパーム油の実と摘み取り用の道具、長靴を発見した。そして、数メートル先で体長7メートルの網目状のニシキヘビを見つけた。明らかにパンタグリュエーションの食事をして、肥大化し、動かなくなったニシキヘビである。野生のニシキヘビは、サルやブタなどの哺乳類を食べることが知られています。レティキュレイトッドパイソンは、何十本もの鋭く曲がった歯で獲物にしがみつき、絞め殺して丸呑みにする。インドネシアをはじめとする東南アジアに広く分布している。世界最大級のヘビであるこのコンストリクター・スネークは、平均体長4~9m、体重90~140kg。1912年にインドネシアのスラウェシ島で原住民に殺された雌を技師が計測したように、例外的に10mに達することもあるのだ。また、1963年にペンシルベニア州のハイランドパーク動物園で死亡した体長8.7メートルのメスは、最大体重が145キログラムに達していたという。他のパイソンと同様に巨大な種であるが、その重量にもかかわらず、他のコンストリクター、特にグレートアナコンダと比べると細身であることが特徴である。

アクバルは案の定、7メートルのニシキヘビに丸呑みされ、消化されている最中だった。「腹が切れたとき、まず首の近くにブーツと足が見えた」と、叔父が地元紙に語っている。"背中に傷を発見したことから、後ろから襲われたようです" Tribun Timurという出版社のウェブサイトに掲載された6分間のビデオでは、村人がニシキヘビの死骸を切り刻み、犠牲者のアクバルの足と胴体が見えるようになっています。これは、ヘビが大人の人間を丸呑みにしたことが世界で初めて完全に確認されたケースで、そのヘビとはアクバル・サルビロであった。悲しい結末。

森を散歩するときは、気をつけましょう。例えば、時々後ろを振り返ることを忘れないでください。何が起こるかわかりませんよ。

工場とフライングプレートと年金生活者

59歳でスペインのタラゴナ地方を定年退職したばかりの男が、自宅で静かに新聞を読んでいたのだから、何が悪いというのだろうか？スペイン南部の小さな町、トーレフォルテの住宅街にある自宅にいたのだ。1トンの鉄板が町を通り抜け、彼の窓を通過する確率はどのくらいだろうか。

きっかけは、IQXE石油化学工場で発生した死者2名、負傷者8名の重大事故だった。酸化エチレンやグリコールの製造、化学誘導品の製造などを行っています。工場から3キロのところに住むセルジオには、遠い話であった。

2020年1月15日（火）18時35分、ラ・カノニャ自治体の工業地帯で、爆発が発生しました。長さ2メートル、幅1メートルの1トンの金属板が3キロ先まで飛んできて、ガルシア・ロルカ広場の住宅棟7番の3階の窓から侵入したのである。その途端、プレートはセルジオが住んでいた下の家の床と天井を打ち抜いた。二児の父である彼は、一人で家にいて、屋根が頭の上に落ちてきた。妻は孫娘と散歩に出かけていた。そして、その時、彼女は呆然としていた。近所の人たちも同じように、建物の一部が崩れ落ち、夫が家の床に倒れて死んでいるのを見たのだ。スラブが3キロメートルも移動するとは誰も想像していなかっただろうが、それが59歳のセルジオさんの命を奪ったのだ。セルジオは、トーレフォルタで長年果物屋を営んでいたこともあり、有名人だった。引退早々、店をたたみ、家族のために力を尽くしていた。彼は、できる限り兄弟を助けた。そのうち2人は果物売りでもある。一人は街で食料品店を営み、もう一

人は地元の市場で別の店を営んでいる。引退後、セルジオは2人の子供の世話と家庭生活に専念した。まさか、工場から自宅まで血まみれの金属板が飛んでくるとは……近所の人たちは、「火の玉だ」と言っていた。「タラゴナ市長のパウ・リコマ氏は、「ありえない事件だ。

家にいるときは、たとえ静かでも気をつけることです。例えば、近くに石油化学工場がないか、時々窓の外を見ることを忘れないでください、何が起こるかわかりません。

星とコンバーチブルとスカーフ

夏の終わりにニースの後背地を散歩するスターに、何が悪いというのでしょうか。イサドラ・ダンカンには完璧な体調のダンサーであり、美しく、金持ちで、有名である。1927年当時の道路はとても軽快で、天気も穏やかで晴天が続く。イサドラが高級オープンカーに乗っている間に、絞殺される可能性はどのくらいあったのだろうか。理屈では、そんなことはありえない。でもね。

1927年9月14日、1台の車に乗ったのがすべての始まりだった。イサドラ・ダンカンは、亡くなった日、運転を習っていた真新しいオープンカーのスポーツカーに同乗していた。海風を楽しむためにシートにもたれかかったとき、彼女の大きな赤いスカーフが車軸に巻きつき、首を締め付け、車から石畳の道に引きずり出したのです。彼女はその場で首を絞められて死んだ。

イサドラ・ダンカンは1877年にサンフランシスコで生まれ、ダンサーになるためにヨーロッパに渡りました。彼女はもともと踊ることが好きで、10代のころには母親が経営する音楽学校でダンスの教師をしていた。しかし、イサドラはクラシックバレリーナの訓練を受けていたわけではなく、プリマバレリーナになる運命にあったわけでもない。その代わり、彼女はボヘミアン的で自由奔放、ダンスは即興的で感情的で、「人体の美しいリズムの動きを再発見するために」振り付けられたという。オペラ座のバレエダンサーが短いチュチュと硬い靴を履いていたのとは対照的に、イサドラは通常、流れるようなガウンとスカーフに包まれて裸足で踊っていた。クラシックバレエが多くの洗練された人々に受け入れられなくなりつつあった時代に、イサドラのパフォーマンスは独立と自己表現を称えるものであり、特に女性の観客は彼女を愛したのである。ま

た、舞台裏ではフェミニスト、自由恋愛の提唱者、共産主義者というボヘミアンかつエキセントリックな生活を送っていた。1913年、彼女の2人の幼い子供が乗っていた車がパリのセーヌ川の橋から転落して溺死し、イサドラ自身も1913年と1924年に交通事故で重傷を負うなど、彼女の私生活は特に車に関して悲劇的だった。1927年に起きたスカーフの事故は致命的だった。

一言アドバイス：車に乗っているときは、たとえすべてが落ち着いているように見えても、気をつけてください。フランスの道路では毎年3,200人以上が亡くなっていることを忘れないでください。

愛好家、ニンジンジュース、ビタミン

ニンジンジュースが、アレルギーもない働き盛りの男性を殺す可能性はどのくらいあるのだろうか？イギリスのクロイドンに住む48歳の健康食の提唱者バジル・ブラウンが、ニンジンジュースの飲みすぎで肌が真っ黄色になり、肝臓をやられて亡くなりましたが、まあ、そんなことがありました。理論的には、こんなことはありえない、すべてうまくいくはずだ。しかし、ご存知のように、物事は計画通りに進まないものです。時には、とても不条理で、場違いなものに思えることもあります。

すべては、美味しく健康的な食べ物、新鮮な食材、絞りたてのジュースを求める情熱から始まりました。48歳のイギリス人、バジル・ブラウンは、おそらくオルトレキシア（ギリシャ語の「オルソス」（正しい）、「オレクシス」（食欲）に由来）に悩まされていたのだろう。これは、健康的な食べ物を食べたいという強迫観念と、ジャンクフード、ファーストフード、ジャンクフードなど、不健康だと思われる食べ物を体系的に拒否することを特徴とする一連の食事習慣である。しかし、バジルは美味しく食べようとするあまり、逆に健康的なものを食べ過ぎてしまうという行き過ぎた行為に走ってしまった。10日間で約38リットルのニンジンジュースを飲むことになり、これは約7000万単位のビタミンAに相当するそうですつまり、バジルは10日間で1日の推奨摂取量の1万倍ものビタミンAを摂取したことになる。にんじんジュースはビタミンAが非常に豊富で、その他にもビタミンKやカリウムなどの栄養素を大量に含んでいます。しかし、摂取しすぎると肝臓がやられてしまう。バジルもそうだった。解剖を担当した法医学病理学者のデビッ

ド・ヘイラー博士は、ニンジンとマルチビタミン剤によるビタミンAの大量摂取の影響は、アルコール中毒と見分けがつかないと述べた。肝硬変という同じ結果を生むのだという。

健康的な食生活を送ろうと必死になったとき、そのことに執着せず、慎重になり、内臓がその食べ物を処理しなければならないことを忘れないでください。例えば、バジル・ブラウンさんのことを考えると、何が起こるか分からないので、食事のバリエーションを増やすことを忘れないでください。